

コース概況

風不死岳は支笏湖の南のほとりにある古い火山である。標高は1102m。山容は山肌をもろに見せる樽前山とは対照的に深々とした森におおわれている。山名の由来はアイヌ語のフップ・ウシ（トドマツの多い山の意味）と言われている。山麓には幅が狭くて深々とした溪谷がいくつもあり、その一つが苔の洞門である。樽前山7合目ヒュッテから登るコースが一般的だが、樽前山からの縦走ルート、支笏湖側から登る北尾根コースがある。

樽前山は支笏洞爺国立公園に属する活火山であり、樽前山・恵庭岳・風不死岳は支笏三山に数えられている。最高点は火口原にそびえる溶岩ドームで、標高は1041mであるが、火山性ガスの滞留の危険などがあり立ち入りが禁止されている。そのため外輪山のピークの東山（標高1022m）が事実上の最高点である。外輪山は他に西山（標高994m）、北山（標高932m）があり、外輪山尾根上には樽前山神社奥宮も鎮座している。火口原の中央の溶岩ドームは1909年（明治42年）の噴火で形成された。その後も水蒸気噴火を繰り返している。最近では平成13年に火山性地震が頻発し地中温度の上昇や溶岩ドームの膨張などが観測された。平成23年には火口が明るく見える現象、平成25年には火山性の地殻変動が観測されている。現在ではただちに噴火の兆候は認められないが、溶岩ドームや周辺の火口は高温で噴気も続き、今なお活発である。

今回の大会では風不死岳北尾根コースから入山する。コース前半は林道歩きである。林道とはいえ、雨水の浸食でかなりえぐられている箇所もあり歩きやすくはない。入口の林道ゲートをこえ、何度かカーブを描きながら高度を上げていく。後ろを振り向くと木々の間から支笏湖がちらほら見え目を楽しませてくれる。標高420m付近で林道はおわり北尾根に取りつく。ここからが明瞭な登山道となり、ほどなく3合目の標識が目に入る。急峻で単調な尾根をひたすら登り続けると、4合目、5合目、6合目の看板が次々と目に入ってくるが、見通しがきかない尾根歩きが続くので地形図上で現在地の確認をするのはかなり難しい。6合目を越えもう一登りすると見晴らし台（標高807m）へ取りつく。ここまで急登が続き高度を一気に稼いできたので、見晴らし台からの景色は一段と素晴らしく見え、疲れが癒される。見晴らし台で一服し先に進むと、8合目を過ぎたあたりから左手に大沢の深く険しい谷が見えてくる。足を踏み外すと谷に落ちていくような危険箇所があるので注意が必要である。傾斜も増し、補助ロープが設置されている箇所も現れてくる。9合目で大沢コース（バリエーションルート）と合流する。山頂は目の前まで近づいてきているのだが、登山道はさらに険しさを増し、岩をよじ登る場面が頻繁に現れる。三点支持をしながらの慎重な足運びが必要である。この辺りは岩場、ロープが続くので手袋を装着しておく安全である。岩場を抜け頂上尾根に出ると一気に視界が開ける。天気が良ければ溶岩ドームを冠した樽前山の雄大な山容が目に入ってくる。思わず歓声があがる場所である。ここから平坦な登山道を数分歩くと風不死岳山頂に到着である。

風不死岳山頂から樽前山へ向かう縦走ルートへ向かいと小ピークがいくつも連なっており、軽いアップダウンを繰り返す。やがて963mの小ピークを越えるとすぐに鎖場となる。岩の裂け目に足場をしっかりと確保しながら鎖を掴み一步步慎重に下降する。安全のため一人ずつ下降するようにしたい。鎖場を抜け急こう配の斜面を下るとやがて平坦な地形となり、足元はザレ場となる。少しずつ高度をあげながら樽前山に向かって南に進んで

いくと、短い間隔で分岐を何度か通過する。二つ目の分岐までは樽前山7合目ヒュッテに続く、いわゆる「お花畑コース」への分岐である。このコースにはイソツツジ、イワブクロ、ウコンウツギなどが咲き乱れとても人気のコースである。3つ目の分岐は進路をぐると進路を北西に変え北山（標高932m）に向かう分岐である。この一帯はガスがかかっているときは分岐が多く目印になるものが乏しいため、迷いやすい。地形図をしっかりと頭に入れておきたいエリアだ。4つ目の分岐を超え、樽前山外輪山尾根に取りつく標高差50mほどの直登を登りきると樽前山の風不死分岐に辿り着く。この分岐から東に向かうと東山方面、南南西に向かうと西山方面である。外輪山尾根は溶岩ドームを取り囲むようにぐると1周でき、圧巻の景色が広がる。時間があるなら是非1周したいコースだ。今回の選抜大会では、この風不死分岐点から西山に向かう。西山山頂には「樽前ガロー」付近が登山口となる「錦岡コース」への分岐がある。静かな林道歩き、往復18kmの知る人ぞ知るロングコースである。西山から東山に向かう途中、樽前山神社奥宮を通過する。こちら知る人ぞ知るパワースポットである。時間があればお参りするといい。神社を超えるとほどなく7合目ヒュッテ分岐だ。ここからは一気に東山まで登り詰める。タイミングによっては強風にさらされるエリアだ。樽前山東山からは太平洋から昇る美しい朝日を見ることができる。深夜から登山を開始し東山ピークでゆっくり夜明けを待つ人も多い。さて、ヒュッテ分岐まで戻り進路を北東に変え下山を開始する。大会も終盤だ。砂礫の急峻な斜面を左手にトラバースで下っていく。目の前に広がる風不死岳と支笏湖との緑と青のコントラストが実に美しい。標高770mあたりからミヤマハンノキが生い茂る灌木帯となる。つづら折りを繰り返しながら、標高約660mでヒュッテに到着だ。ここからは車が行きかう約4キロの観光道路を下り、樽前山5合目駐車場に到着する。